

- 川低地における過去 32,000 年間の環境変遷. 第四紀研究 32: 195–208.
- 鈴木三男・能城修一. 1987. 北江古田遺跡の木材遺体群集. 「北江古田遺跡発掘調査報告 (2)」(北江古田遺跡調査会編), 506–556, 中野区, 東京.
- Suzuki, M. & Noshiro, S. 1992. Further occurrence of *Hemiptelea mikii* fossil woods from the Pleistocene Japan. *Journal of Phytogeography and Taxonomy* 40: 98–99.
- 辻 誠一郎・南木睦彦・鈴木三男. 1984. 栃木県南部, 二宮町における立川期の植物遺体群集. 第四紀研究 23: 21–29.
- 辻 誠一郎・加藤定男・小倉順子・南木睦彦・能城修一・鈴木三男・杉山真二・小杉正人・坂上寛一・小川政之. 1991. 旧石器時代の古地理と古環境. 「お伊勢山遺跡の調査: 第2部 旧石器時代」(早稲田大学所沢校地文化財調査室編), 3–65. 早稲田大学出版部, 東京.
- 辻 誠一郎・小杉正人. 1991. 始良 Tn 火山灰 (AT) 噴火が生態系に及ぼした影響. 第四紀研究 30: 419–426.
- 辻 誠一郎. 1992. 東京都調布の後期更新世野川泥炭層から産出した花粉化石群. 植生史研究 1: 21–26.
- 宇野沢 昭・磯部一洋・遠藤秀典・田口雄作・永井 茂・石井武政・相原輝雄・岡 重文. 1988. 筑波研究学園都市及び周辺地域の環境地質図. 139 pp. 地質調査所.
- Yoshida, A. & Takeuti, S. 2009. Quantitative reconstruction of palaeoclimate from pollen profiles in northeastern Japan and the timing of a cold reversal event during the Last Termination. *Journal of Quaternary Science* 24: 1006–1015. doi: 10.1002/jqs.1284
- Wu, Z.-Y. & Raven, P. H., eds. 2003. *Flora of China*, vol. 5, *Ulmaceae through Basellaceae*. 505 pp. Science Press and Missouri Botanical Garden Press, Beijing and St. Louis. (2011年1月21日受理)

書 評: 三好教夫・藤木利之・木村裕子. 2011. 日本産花粉図鑑. B5 版, 852 頁. ISBN978-4-8329-8198-0. 北海道大学出版会, 札幌. 18,000 円+税.

本書は日本植生史学会名誉会員でもあり, 先年岡山理科大学を退職された三好教夫博士とその門下生の藤木利之博士, 木村裕子博士による同研究室 40 年にわたる花粉学研究的集大成ともいべき 207 科 794 属 1305 種におよぶ植物花粉写真が収められている花粉図鑑である。

本書の構成は大きく 3 部に分けられている。まず第一部では光学顕微鏡 (LM), 走査型電子顕微鏡 (SEM) と透過型電子顕微鏡 (TEM) による現生花粉写真のほか, 化石花粉の SEM 写真も掲載されている。なかでも, 現生花粉の SEM 写真は, 本書の主体をなすもので図版頁の約 80% の頁数をあてている。国内では花粉の SEM 写真集は黒沢 (1991) をはじめいくつか出版されているが, 本書はまさにその中の白眉といっても過言ではない。あたかもオブジェのような花粉の造形美を余すところ無く示して、思わず専門学術書であることを忘れてしまうほどである。また, 花粉をそのまま観察することが多い空中花粉や蜜源花粉を研究観察対象とする場合への配慮もぬかりなく, アルコール処理で表面の汚れを取り除いただけの花粉の LM 写真も収められている。第二部は解説編であり, 花粉形態に関する研究史, 研究方法, 記載用語の解説のほか, 花粉の形態的特徴, 植物採取地, 開花期などが各分類群ごとに詳しく記載されている。第三部は花粉検索表が模式図をまじえながらまとめられており, 花粉形態に関する専門用語の知識が乏しい初心者でも直ちに利用できるよう工夫されている。

LM 写真は, ほとんどの花粉が液浸レンズを用いないで

撮影されているようで, SEM 写真に比べその品質が全体的にやや劣ることや, 我国ではイネ科花粉などの区別に利用され, 欧米でも微細な花粉表面模様の観察に頻繁に利用されている位相差顕微鏡写真が収められていない点などに若干の不満を感じるむきもあろう。また, 解説中, グリセリンゼリー処方でのゼラチン量に誤りが見られるほか, トウヒ属で重要な区別点である発芽口域の外壁内側のいぼ状紋が記載されていない点などが見られるものの, 本書の価値に比べればそれらの僅かな欠点は無いに等しい。何より, 我国では花粉形態に関する書籍は幾瀬 (1956) の『日本植物の花粉』以降いくつか出版されているが, SEM 写真と LM 写真に加え検索表まで備えているのは本書が初めてであり, これだけの情報量をもつ大著が 18000 円+税という安価で入手できることは驚きである。著者らの努力と出版社の英断に感謝すべきである。

花粉形態, 花粉分析, 空中花粉に携わる者には必携の書であることは間違いなく, 第四紀学, 植物分類学, 生態学など多方面の研究室にも是非 1 冊そろえておくことをお勧めする。なお, 日本植生史学会会員には 2 割引での販売もあるとのことである。

引用文献

- 幾瀬マサ. 1956. 日本植物の花粉. 廣川書店. 303 pp. 東京.
- 黒沢喜一郎. 1991. 被子植物の花粉—走査型電子顕微鏡による—. 大阪市立自然史博物館収蔵資料目録第 23 集, 189 pp. 大阪.

(守田益宗)